

平成 20 年 5 月 12 日
東京都板橋区小豆沢 3-6-10
オリエンタル酵母工業株式会社

オリエンタル酵母工業 第 122 期連結決算発表

平成 20 年 3 月期 連結決算

オリエンタル酵母工業株式会社の平成 20 年 3 月期連結決算につきましては、売上高は増収となりましたが、経常利益は前年実績を下回り減益となりました。

当社グループは、食品・バイオの両部門共に設備面や R & D 面での積極的な投資を行い、生産効率の向上と研究・開発体制の強化や新製品開発などを促進してまいりました。また研究・開発、製造、営業が一体となった拡販体制を推進すると共に、省力化や CO₂ 削減に向けた環境投資を進めてまいりました。

売上高につきましては、食品部門は、イースト関連やフラワーペースト・油脂加工品の売上は新製品の拡販効果もあり前期を上回りましたが、マヨネーズや総菜類の売上は前期を下回りました。バイオ部門は、生化学・免疫製品、バイオニュートリショナル製品（酵母エキス・組織培養用培地）を担うバイオサイエンス部では新製品・新市場開拓の効果もあり売上は前期を上回りました。一方、ラボラトリーアニマルサイエンス事業を担うライフサイエンス部は、主要な顧客である医薬品企業の研究開発施設の統廃合や、国公立大学の法人化に伴う科学研究費補助金の見直し等があり、売上は前期を下回りました。その結果、両部門とも売上高は前期を上回ることができました。

しかしながら、利益につきましては、原油や穀物相場の高騰等に伴うエネルギー費や原材料費の急激な上昇がコスト吸収努力の限界を超え、利益を圧迫する大きな要因となりました。

連結業績につきましては、売上高は 618 億 92 百万円（前期比 101.4%）でしたが、経常利益は 19 億 57 百万円（前期比 74.4%）となりました。当期純利益につきましては、11 億 31 百万円（前期比 60.9%）でした。

平成 21 年 3 月期 連結業績予想

平成 21 年 3 月期におきましては、引き続き営業体制の強化や製造・販売・管理にわたるコスト吸収策の推進、適時・適切に価格改定を進めるなど既存事業の収益基盤を強化すると共に、新製品の上市促進や新規事業の展開を進めてまいります。また、海外におきましては前期に設立した海外拠点を足がかりに、新規市場の開拓も促進してまいります。しかしながら、穀物相場の高騰等による原材料費の上昇はベーカリー製品の需要減退の懸念があるなど、先行き不透明な状況にあります。

平成 21 年 3 月期の連結業績につきましては、売上高は 632 億円（前期比 102.1%）と過去最高を更新する見込みで、経常利益は 20 億 60 百万円（前期比 105.2%）、当期純利益は 10 億円（前期比 88.4%）を予想しております。

以上